中国　雲南省産ブルーベリーを初めて日本に出荷

FreshPlaza　2024年5月1日

4月14日、雲南省にある鵬升(ペンシェン)社の栽培基地から新鮮な「枝冠(ジグアン)」ブルーベリーを積んだ冷蔵トラックが出発し、空港に向かった。福州で積み替えられた後、ブルーベリーは東京に到着した。この出来事は、雲南省の枝冠ブルーベリーが日本市場に初めて参入したものであり、雲南省産の生鮮ブルーベリーが日本に上陸した最初の例でもある。20時間の旅を終えたこの貨物は、農林水産省の植物防疫検査と、厚生労働省の残留農薬検査に合格した。その後、東京の大田市場で販売されたブルーベリーは、直ちに売り切れた。

鵬升社は、海外市場へのアクセスを容易にするためにグローバルGAPとISO22000（食品安全管理システム）の認証を取得し、輸出パートナーである漳州徳興(ジャンジョウデーシン)社と協力して日本の消費者の嗜好に応えるよう努めている。香港とタイでの市場参入の成功に続き、鵬升社は日本と東南アジアでの事業拡大を目指しており、今後1～2年以内に約50トンの輸出量を目標としている。

現在は航空貨物が主な輸送手段だが、週1回の定期配送による大規模輸送への移行が計画されている。枝冠ブルーベリーは、雲南省、遼寧省、山東省、四川省などの約6千亜(ムー)（約400ヘクタール）で栽培されており、国外のパートナーを含めた栽培面積は約2万亜（約1,350ヘクタール）である。協調した栽培により、新鮮で高品質なブルーベリーを中国国内外の消費者に年間を通じて安定的に供給することができる。

出典: blueberriesconsulting.com　（翻訳当たってはFreshPlazaのほか国際果蔬報道を参考にしました。）

イタリア　リンゴをCAコンテナでインドに試験出荷

FreshPlaza　2024年5月2日

輸送時間が長くても高品質を保証

CAコンテナで果実を出荷することは、熱帯果実のほか、チリ産のサクランボや南アフリカ産の生食用ブドウでも普通のことである。ノルドオヴェスト社のマッシモ・デルポッゾ営業部長は、「最近、CAコンテナでリンゴをインドに出荷したが、イタリア産リンゴではあまり一般的ではない」と説明する。（以下「　」は同氏の発言）

この試験輸送は、スエズ運河の問題により輸送時間が15～20日長くなったため、最も遠い市場に到達する際のリスクを減らすために不可欠になったものである。「弊社の取引先は、特に次の販売シーズンを心配している。物流の問題で顧客を失うのは馬鹿げているように思えたので、輸送が長期化しても品質を高く保つにはどうすれば良いかを考え始めた。」

イタリアの港でこのタイプの出荷に適したコンテナを見つけるのは容易ではない。最近行った出荷は、状況が変わらなければ、より広く使用することを視野に入れた試験である。「我々は2つのコンテナを出荷した。1つはCAコンテナで、もう1つは従来型の冷蔵コンテナなので、到着時に2つの貨物の違いを確認できる。」

「試験をできるだけ科学的にするために、同じ収穫物から得られた同じ品種のリンゴを同じ方法で貯蔵したものを出荷し、変数を最小限に抑えた。」

「これは、現在の状況にかかわらず、品質を保証し、苦情のリスクを軽減することで、将来的に遠く離れた市場に参入する絶好の機会に繋がると考えている。」